同窓会会報
第22号
昭和51年12月15日
発行所
茨城県東茨城郡
内原町鯉渕5965
鯉渕学園同窓会
印刷所
㈱双葉社印刷所

同窓生の同窓会館の建設
学園教育への協力

鯉渕学園同窓会会長
和田文雄

一、長い歴史的経過

私たちの同窓会館の建設への道程はかなり長い間懸案となっていました。しかし、ようやくその目的を達成する時がきました。

① 同窓会館の建設は昭和二十年頃東京都内に宿泊所を主体にした取得が考えられていた。

② 学園の中に求めることとし、学園長宿舎を何万円かで買取ったこととなっていたが、学園の短期耐修事業の実施から返還した。

③ 二十周年事業も終り、三十周年事業の検討過程で、同窓生の期別会合が増えるに従って、同窓会本来の同窓生のための事業ということが話題となってきた。

④ 農村生活総合実習の充実と近代的農村生活探究の施設としてのモデル農家の必要が求められた。

⑤ 外来講師の宿泊施設の必要性

⑥ 入学式、卒業式に来られる父兄の宿泊場所の必要性

二、学園の教育施設の拡充整備

学園の教室や教育施設の整備は十周年記念で図書館の建設、二十周年記念で教室を、同窓生はとめ農業団体の協力を得て建設しました。同時に学園の再建計画を模索しながら学園教育の強化のための運動を推し進め、農林省に五ヶ年計画を作成してもらいました。

それは、生産実習施設として、温室、ビニールハウス、スチールサイロ、肥育牛舎、畜産、園芸、調理の各実習室、教育宿泊施設としては、基礎実験室、教室、講堂、本館、体育館、学生寮、食堂、浴場などで五十三年に完成する予定となっています。

こうした長期の改善計画であり、施設の設置場所にもいろいろ問題がありましたので、昭和四十七年四月同窓会は設置の地域区分を、教育ゾーン、体育施設ゾーン、研修施設ゾーン、学生生活ゾーン、庭園等の区分を原形（学園創立時の理想的な）に忠実に区分して、道路の整備をはかるよう意見を具申し、学園は六月ほぼこの案にそって配置計画をつくり、それに基いて建設が進められてきています。

あと、本館、講堂、体育館、食堂などが残された主な施設ですが計画が大巾に遅れているため三十周年の記念式は目下日程が出来ていないようです。

三、鯉渕学報の発行

内部の教育施設の充実強化がすすめられていましたが、卒業生は農村で活躍していますが、広報及び研究、あるいは学術による指導、あるいは共論の喚起ということで不足する、いや行われていないので、これを鯉渕学報によって学術の発展と農村での実践の交流に寄与しようとして、卒業生及び教育陣の論述を求めて、二号までの発行となりました。一号は同窓会で発行し、学園で買上げ、二号は学園で発行、同窓会でその費用の一部負担と言うお法をとりました。これからの学報の充実は学園及び同窓生の発展とも期待したいものです。

四、同窓会の三十周年記念事業

第十一回大会（昭和四十八年十一月三日）において三十周年記念事業を民芸館の再建（既に会員各位へ集収をお願いしたとおり）同窓会館の建設の準備などを決定しました。学園や農民教育協会側との折衝で、学園長は「民芸館の設立はよいことだ」としながらも、まだ具体的に学園側の委員など選出されていません。また同窓会館の中の宿泊施設、農村生活総合実習などについては「農村文化創造館（生活文化、家庭機械、生活総合の実習室、ゼミナール室、宿泊室、建設費二億三百万円）の建設計画を国庫助成でつくり、これを三十周年記念とし、したがって記念式や祝賀会はこれが出来たとき行う予定としたい。これの建設資金の一部として同窓会でも準備協力してほしいということでした。（昭和五十年六月三十日付学園長回答）

同窓会としては、いつでもこれに資金を提供してよいということで準備していこうと募金活動に入ることにしました。

しかし、武藤前学園長の急逝によってこの計画の実行は危ぶまれる状態となり期待は出来なくなると見られましたが、

学園や協会を信頼し期待しました。

昭和五十一年七月三日、学園に大蔵省主計局の主査、農林省の普及教育課の学園担当官ら十余名の方が視察にこられました。

丁度、五十二年度予算の編成事務のときであり、農村文化創造館二億円の陳情には絶好の機会であったはずでありますが、当日、学園、協会から提出要望された「昭和五十年度以降施設設備計画」には全く農村文化創造館の計画もなければ補助の要請もされていませんでした。

これでは学園長からの回答にあった、国庫助成への期待は無くなりこれ以上ひきのばすことはできませんので、既に五月全国支部長会議で決定された方向に副って募金を行い、同窓会館をつくっていこうということになり趣意書を会員各位に発送し、来年十一月の同窓会大会までに建設することにいたしました。

五、同窓会館の施設と教育的活用

㈠　同期会など

毎年何度か同期会が開らかれているが水戸、笠間、大洗、内原の旅館などで行われ折角全国から集っても学園に一～二時間しか滞在していない。全国をまわりもちながらも別の意義はあろうが。

㈡　新婚旅行や家族旅行など

家族で学園を訪ねても、よい印象をもてない。例えば、ある人の夫人はどこに学校の施設があるの？　ある人の子供は夜になったら狼が出る？　とこわがった。宿泊施設に泊って安心して、ゆっくりみてほしいもの。新婚旅行で学園を訪ねるなどどう考えても計画が立てられない。

㈢　入学式や卒業式の父兄の宿泊など

友部などの旅館に泊ってもらっていますが、学園の中で泊ってもらいたい。

㈣　日常の訪問者など

卒業生や見学者も宿泊するところがない、卒業生の多くは、先生方(同窓生の)舎宅に好意でとめてもらっている。

㈤　農村生活総合実習など

文化的でない、近代的でない実習を舎宅で行っていた。今は行っていない。農村生活改善のための教育に欠けるところがある。

㈥　外来講師の宿泊など

外来講師による授業は必要なことです講義の時間だけでなく集中講義のとき宿泊して、講義準備、学生との話し合いなどは教育上必要なこと。

かつての外来講師は、例えば植物病理―明日山秀文（東大教授・植物病理学会長）農業経済―磯部秀俊（東大教授・農業経済学会長）昆虫―石井悌（東京高農・東京農工大学長）三井計夫（林業試験場部長・草地学会長）農機具―二瓶貞一（農林省勅任技師―農機具学会長）醸造―杉本憲治（大蔵省醸造試験場）農業気象―大後美保（中央気象台・農業気象学会長）果樹―黒上泰治（宇都宮農専・香川大学長）蔬菜―藤井健雄（千葉園芸農専）蔬菜―江口庸雄（農林省農試・日大教授）農業工学―田中貞次（東大）農村林業―小野陽太郎（林野庁研究官）科学―仁科芳雄・文化―田中館愛橘などの方方が来賓宿舎に泊られ講義した。

これからも、こういう立派な先生方を外から迎えるための施設がない。

六、会館建設のため　同窓生の募金を

募金の目標総額は三千万円です。一人一口一万円をお願いいたします。

一万円は多額にすぎるという声も聞いておりますが、九月末の応募状況は若い卒業生が高率で募金をしていますので、来春までの間是非全会員が募金して下さるようお願いいたします。

また各支部に、支部目標額をお願いしてありますので、いろいろな方法でご努力下さい。

その方法として

①　支部内の地区割して地区担当者をきめて、担当者が会員を訪ねて応募を願う。

②　支部内の期別の担当者をきめて、期別の会合等を開き応募を願う。

③　職場等の系列で常時連絡のとれる単位で担当者をきめ職場での応募を願う。

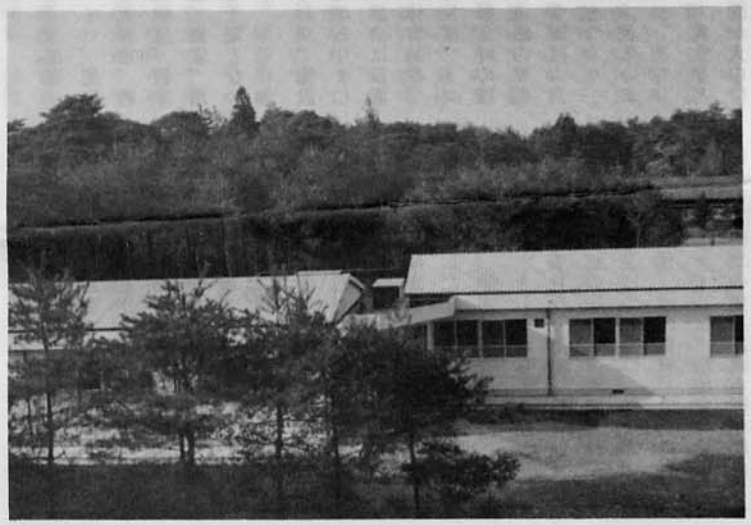
④　支部で幹事会などを開き、募金達成状況を検討し、目標を達成する方法をとって頂く。

⑤　支部事務局と本部事務局とよく連絡をとり、募金状況を把握して頂く。

⑥　これから開かれる支部の会合に、本部から責任者を派遣しますから会合の日時、場所等を本部に連絡して頂く。

などありますが、同窓生の会館を完成させるため特段のご努力とご協力をお願いいたします。

新築された男子学生寮



御挨拶

吉川直行

本年七月一七日付で副学園長を迎せつかった吉川でございます。八月早々に前任地の九州から引越して参りまして、みなさん御存知の若竹寮、あの竹やぶと木立にかこまれ前庭には清水が湧き出ている、なか〳〵風雅な茅屋に居を構え、漸く鯉渕の空気にも馴染んだかなという所です。

お話の順序として自己紹介から、それもみなさんが全国的においでなので、今后の話題のよすがに私の遍歴の足跡を辿らせていただきます。まず出身は東京。戦前は民歴・軍歴ともに当時の中華民国で過しましたが、復員後は最初に岩手県六原の開拓研究所東北支所、次いで栃木県西那須野の関東東山農業試験場。ここまでは主に農業経営の調査研究に従事して参りましたが、三九年に北海道農業試験場に出てからは試験研究の管理運営に終始しました。その后千葉の畜産試験場、鴻巣の農事試験場を経て、公務員として最后の職場になったのが九州農業試験場で、九州では復帰后間もない沖縄を幾度か訪れることができたのも得がたい経験でした。以上が私の遍歴のあらましですが、西那須野時代には農業経営部長としての今は亡き武藤前副学園長、札幌時代には場長としての秋浜学園長の知遇を受け、こうした出会いが今日の私を導いたものと、人生の奇遇を感じている次第です。

扨、こういう場面では何か抱負めいたことを申し上げるのが常かと思いますが、内外多事でまだそうもゆきかねますので、私がこれから仕事をしてゆく上で、今最も気にかけている問題の一・二にふれてそれに代らせていただきます。

その一つは農業が今置かれている状況。農業基本法前后までは多少とも従来の考え方での展望が持てたのですが、米の生産調整あたりから様子がおかしくなり、その后は総崩れ的兼業化と農地の資産的保有化とで一種の閉塞状況に陥っていることは、みなさん御承知の通りです。石油ショック以来農業見直し論なども出て来てはおりますが、これとて都市的視点からの環境保全や人間性回復に比重がかかり、結果としてそれらを自ら招来する筈の農業そのもののありようのトータルは、依然晦渋を極めているのではないでしょうか。もちろんこうした中でプロセスはプロセスとして進行し、その中に前途を見出す模索も続けられてはおりますが、問題はこうした中での行動指針は従来の考え方では律し切れないものが多く、教育の立場で考える時まことに容易ならざる事態と考えるわけです。

私としてはこの問題にかかわらせての積りですが、次が外ならぬ学園の伝統というか学風というか、その状況。みなさんを前にして一知半解のそしりを負れませんが、私が学園二〇年史から得た理解は、学風の基礎は小出先生の自由主義的・個人主義的指導理念に発し鞍田先生の時代にかなり普遍的な表現を与えられたのではないでしょうか。ここに一一語録を引用する余地はありませんが、その源に私は大正デモクラシーの光芒を見るような思いさえしております。しかしその后は資料も乏しいですが余り揚言されることもなく、むしろ現象的な衰退がささやかれているようにも見受けられます。伝統というものは得てしてそういうものですが、殊にここ一〇年の社会的激動や最近の学園事情を考えれば、それも無理からぬ気がするのです。私自身も揚言するにはたじろぎを禁じ得ないものがありますが、それにしても時代が激動期だけにこの辺の所改めて考え直す必要をひそかに感じている次第です。

どうも歯切れの悪いお話ばかりで恐縮ですが、決して退嬰的な気持からではなくむしろ跳技に乗ってのそれであることを御理解いただき、みなさん方の今后の御力添えを心からお願いして御挨拶を終ります。

学園人事移動

採用

吉川　直行　五一、七、一　副学園長（前九州農試場長）
広瀬　勇祐　五一、四、一　酪農場勤務
中根　町子　五一、四、一　教務課勤務
同窓会業務も担当
菅原　常盤　五一、五、一　教務課図書係（三十期）
菊地　崇　五一、六、一　園芸農場勤務

退職

小谷　浩二　五〇、一二、三一
小野口滋子　五一、四、三〇
内藤　大吉　五一、三、三一
阿久津　信　五一、三、三一
内藤さん、阿久津さんについては退職後も臨時職員として協力いただいております。

事業の動き

支部長会議結果報告

去る五月十五日、鯉渕学園において、秋田・山形・茨城・栃木・埼玉・千葉・東京・神奈川・福井・長野・山梨・愛知・京都・兵庫・島根・香川の支部代表者並びに本部役員の出席を得て支部長会議が開催されました。

議題は

一、三十周年記念事業の推進について

(イ) 同窓会館の建設のための記念募金の実施計画

(ロ) 民具の収集について

二、会費の納入方法について

三、その他

で、審議時間の大半を一、の(イ)同窓会館建設のための実施計画（大会決定）について、の(ロ)、二、については執行部案通り承認され、その他の案件は提案がなく会を閉じました。

審議の結果は次の通りです。

一、の(イ)記念募金の実施計画について

(一) 募金目標　三千万円とする

(二) 募金一口　一万円（分割も可）

会員一人一口以上とする

(三) 募金の期間　短期間とし期間の決定は役員会に一任（役員会で昭和五十一年七月より昭和五十二年六月末日に決定）

(四) 本部と支部の連携を密にし、共に支部募金目標額達成のため努力する。

(五) 募金方法については会員より本部へ直接募金する方式と支部でとりまとめ一括して募金する方式の二方式とするが、どちらの方式を優先するかは支部の判断にする。

(六) 建設場所は旧独身職員寮（松花寮）跡地約三千平方米とする。

(七) 同窓会館の建坪は約八十坪とするが具体的には募金の状況をみて役員会において決定する。

(八) 同窓会館の利用維持計画についても着工前に役員会において検討する。

一、の(ロ)民具収集について

支部は地域性を考慮して民具の収集に協力する。

二、会費の納入方法について

大会において予算に計上してある額つまり、会員総数と会費収入額に大幅な差があることは問題があるとして役員会において会費納入方法について検討し支部長会議にはかって決定するの附帯条件をつけ予算が成立した。これを受け検討を重ねたが、同窓会の会費納入の現状と性格を考えると会費納入者のみ会員の処置もとれず、今迄通りの原案が提出され、原案通り承認、今後は従来にもまして支部による一括納入も含め会費の徴集に努力する。

会議終了後、諸先生を迎えて懇親会に入り、白田先生指導による生活栄養科学生の心こもる料理にかこまれた中で支部の状況と自己紹介、しばしの団欒の後、茨城と長野両支部長による茨城三百万、長野百万の募金達成の誓約書が披露されるなどなごやかなうちにも熱気をはらんだ中で会議を終了いたしました。

鯉渕学園三十周年記念 同窓会館建設趣意書

同窓生の皆さん益々御健斗のこととお喜び申し上げます。

私たちの同窓会も学園とともに三十年まさに苦難の連続でありましたが、同窓会員も五千名になろうとしており、農村及びそれぞれの持ち場において、農村指導の実践に務められ同窓生の評価を一段と高めておられることは真に喜びとし、同窓生の晴がましさを感ずるものであります。

同窓会三十年の歴史はどれも同窓生の一致団結した行動と、事務局、役員の並並ならぬ御苦労によって築づかれてきたものであります。

幸いにして、会員各位の労苦は学園の存立に有効に作用し、学園の今日の発展をもたらしていると自負しうるものであります。

去る第十二回同窓会大会において、同窓会活動にも、そして学園の教育上も必要な施設として同窓会館の建設を行うことを決定いたしました。

以来、慎重に検討を重ね、五月十五日全国支部長会議の議を経てその建設資金

30周年記念

の募金を同窓生各位にお願いすることとなりました。

同窓会館の建設は同窓生の永年の夢でありました。そして昭和二十九年以来建設資金として入会金を積立ててきましたが、ここに同窓生の会合、宿泊、学生父兄の宿泊と外来講師の宿泊及び学生の教育実習にも利用できるものとして建設することといたした次第であります。

学園は目下、国費の助成をもって五ヶ年計画を進め学生寮、本館、講堂、体育館等の建設を残すのみに整備されてきていますが、これらが、農民教育協会、学園の御努力によって完成することを待ちながら、私たちも、旧交を温め、あるいは家族して訪ね鯉渕の団欒を楽しむことのできる同窓会館を同窓生の力によって造りあげたいと念願するものであります。

諸事御多端のこととは存じます、が別記計画の募金が達成され、鯉渕の地に私たちの同窓会館が建設できるよう、持段の御協力を賜わるようお願い申し上げます。

昭和五十一年七月

鯉渕学園同窓会会長　和田文雄

同窓会各位

記

鯉渕学園同窓会館建設計画

一、建設資金募金計画

(1)募金目標額　三千万円

(2)募金一口金額　壱万円（何口でも可）

(3)募金達成時期　昭和五十二年六月末日

(4)送金　鯉渕学園同窓会本部事務局

同封振替用紙をご利用下さい。

二、同窓会館の概要

(1)建設場所　旧職員独身寮、松花寮跡、敷地面積＝三千平方米

(2)建物の規模　二六〇平方米（約八〇坪）宿泊室、会議会合室、同窓会事務室、食堂、浴室、その他

(3)建設費　建物＝二千四百万円、庭園造成設備什器等四百五十万円、計二千八百五十万円

(4)募金費及び諸費　百五十万円

(5)工期及び落成　昭和五十二年七月着工　昭和五十二年十一月完成　同窓会第十三回大会において落成披露を予定

三、支部での募金活動

支部別に募金責任額が定めてありますので各支部において達成のため協議して下さい。

去る七月、全会員に趣意書をお届けし同窓会館建設にご理解とご協力を賜りますようお願いいたしましたが、住所不明の会員が多数ありましたために、お届けできなかったり、差し戻しになったりしました。

その後の調査によって住所がわかった会員も少くありません。本来なら早速趣意書をお送りしてご協力をお願いすべきところ、甚だ勝手ですがこの趣意書をもってご理解下さるようお願い申し上げます。

―同窓会本部事務局―

三十周年記念募金――についての反響――

事務局長　高橋隆三

長い間の夢でありました同窓会館の建設が、学園創立三十年を契機として現実のものとなろうとしております。

学園の象徴の一つとも言える来賓宿舎もいたみがひどく同窓の来訪を受けても安心して案内することができない状態で

中心に募金に対する反響をお知らせします。

先ず各支部のトップを切って福井支部総会が開催され、続いて栃木支部・島根支部・鳥取支部・茨城支部と次々に会を開いて募金への全面協力がなされております。近くは十二月十二日、京都支部、十二月十七日、東京支部総会が開らかれます。

福島・山梨の両支部については、支部長名をもって支部会員への協力を呼びかけております。

その内容を紹介しますと

鯉渕学園同窓会　山梨支部会員殿

前略――

さて、先般同窓会長から同窓会館建設趣意書の送付をうけ、同資金募金の協力要請を求められておりました。このことは全会員宛に文書が送られたものと思い既にお手許に届けられているものと存じますがいかがでしょうか。

県支部として取りまとめの要請を受けながら日を重ねご無沙汰に過して居たところ、去る十月末私宛に募金状況の中間報告と共に県支部会を開催し協力態勢の確立を強くもとめられました。

鯉渕学園を母校とする我々にとって、母校の発展は共通の願いでしょう。特段貧困な文教政策のもとで、真に農民教育の機関として貴重な存在を維持する学園が、同窓生と分離することなく、その歴史を積む。常陸野をたずねればそこに新しい後輩に支えられ、生気溢れているとすれば、同窓生にとって彼自身の人生を愛するように限りなく幸せなことでしょう。

同窓会館の建設は意義深いものでしょうが、募金への協力は誠に困難な現実があり、お願い申し上げることにためらいを覚えているところですが、その趣旨に深いご理解を給わり各位の事情の許される限りのご協力をお願い申し上げます。

中略――

同窓四千余名をもってすれば目標達成も充分可能な金額です。県支部としての現金取りまとめは行わず直接同窓会本部事務局にご送金下さい。なお貴下の御都合御応募計画などについて私宛にお知らせ下されば、本部に県支部としての状況を報告いたします。

山梨支部長　小林正己（五期）

前略――

さて、本部からの連絡ですでにご承知のこととは存じますが、鯉渕開学三十周年を記念して「同窓会館」の建設がすすめられています。

旧交も温め、あるいは家族して鯉渕の地を訪ね団欒を楽しむことができる「同窓会館」の建設は、私達としてもこれまで待ち望んでいたものです。

つきましては諸事ご多端の折とは存じますが、趣旨にご賛同いただき一口（一万円）以上の募金にご協力くださるよう特段のご配慮をお願い申し上げる次第です。

尚年内に学園宛送金くださるよう申し添えます。

福島県支部長　佐藤忠司

聞くところによると地元茨城支部では地域別に幹事を選出し最終的には幹事による個別訪問の募金への協力も計画しているようです。

既に支部としてのとりまとめによると数百万円の募金の見込みが成るの情報も入り心強い限りです。

会長からの情報によると北海道・青森も募金への協力体制を着々と進めている様子、また、来園された徳島支部代表者も支部に帰り次第会員に呼びかける、一期生の集りが栃木塩原において開かれ、その際も今度はやろうと話がまとまったように伺っております。

時々来園する同窓から募金を受け「今回は盛りあがっている」の声を耳にする時三十周年募金事業が今迄実施した十周年二十周年記念募金以上に大きな反響それも心強い形で広がっていることをしめしています。

茨城支部だより

全国の皆さん元気ですか、茨城支部の近況をお知らせします。

茨城支部同窓生四六〇人、全員すこぶる元気です。だが、今迄いったい何をやったであろうか？　約五〇〇人の大部隊で「音なしの張り子の虎」だったのか？　否！さにあらず。

吾が支部は余りにも大部隊のため、期別、地域別又は職業別に集会をもち、活潑なる情報交換をおこなっておりますが、支部大会となると会員数のわりに盛況でない状態です。

同窓の年齢層も上は五五才下は二二才と三十年の歴史を象徴しており、思えば荒けずりのまま、吾が同窓は職場に進出し一人厳然として職務遂行のため血みどろの努力と精進により、徐々に学園の真価を発揮しつつあるのが現況です。

二年前から県内同窓生有志等により、種々の理由はあるけれど「鯉渕学園建学三十年の歴史」と「吾々と学園との出合い」を大切にするため、支部同窓生の大同団結の気運が全般的に上昇したので、組織強化と三十周年記念事業茨城支部募金目標達成を期し、五一年一〇月吉日支部大会を開催しましたところ、会員多数の出席を得、協議事項等も満場一致で可決され、引続いての懇親会等盛大裡に挙行できましたので今後の活動を御期待下さい。

尚、支部役員も大いに張り切っておりますので御紹介いたします。

支部長　小泉信吉（四期）
副支部長　真野量次（四期・鹿行）
〃　鈴木聖志（五期・県南）
〃　中村信夫（七期・県北）
〃　篠崎芳三（八期・県西）
事務局長　梅崎孝臣（一三期）
幹事　組織担当　渡辺正信（七期）
〃　〃　向井喜久男（八期）
〃　会計担当　本宮好美（一二期）
〃　他各農業改良普及所　二名
監事　後藤功一（九期）
〃　鈴木吉雄（一三期）

（梅崎記）

昭和五十二年度
学生募集協力依頼について

学園長　秋浜浩三

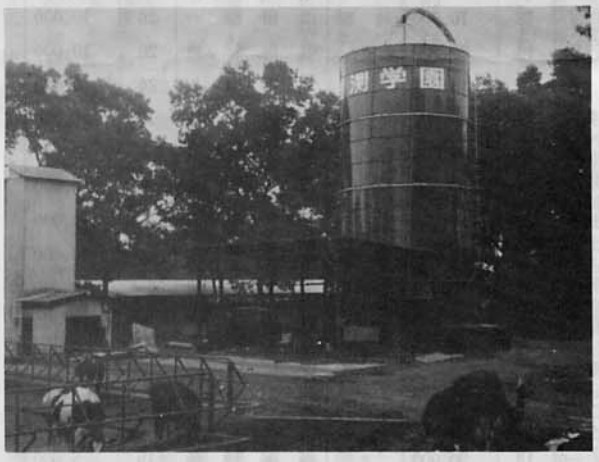
謹啓、年の瀬もつまり、何かとお忙しい毎日と存じますが、皆様にはいよ〳〵ご健勝にてご活躍のこととお察し致しております。

お陰様で私たち教職員一同、元気で頑張っております。何時もご心配をおかけしております「学園財政」も、依然窮迫の域を脱しられずにおりますが、近年は農林省助成・農業団体の援助等で、往時のような貧困は甚ないで経過しております。又、毎年、格別のお力添えを戴いて参りました学生募集も、著しく定員を割るようなこともなくなり、ここ一～二年は募集定員の倍近くも応募者があるようになり、これも卒業生の皆様の何時も変らぬ、ご支援、ご協力のたまものと、一同深く感謝申し上げておる次第であります。

さて、五二年度の学生募集も、教務課を中心に進めており、全国の高等学校、農業諸団体、その他に募集要項を送付してご協力をお願いし、又幾つかの受験雑誌や新聞等にも募集記事を登載し、NHKテレビ等にもPRを依頼するなど、出来るだけのことを致しておりますが、それにしても少額の募集経費でのことですから、手の届かぬ所も多く、漏れも少なくないと心配しております。

卒業生の皆様には例年、別刷「学生募集要項」を同窓会報に同封させていただき、特にご協力をお願いしておりますが、今年も、学習意欲に燃えた、健康で優秀な後輩を一人でも多く、ご紹介、ご推薦下さるようお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様のご健康をお祈り申し上げます。



酪農場に建設されたスチールサイロ（積込量 180ｔ）

事務局だより

一、名簿の発行

会報二十一号に名簿発行を近日中にと約束しながら、遅れに遅れて十一月下旬ようやく発行することができました。

注文がありました会員には第一回目の発送をすまし、引続き料金あと払いの注文者に第二回目の発送準備をすすめております。

名簿が着き次第送金下さい。

名簿の内容は一期から三十期並び通信教育一期から五期までの正会員、在学生、農民教育協会役員、学園教職員並びに旧教職員の住所氏名、索引で頁数は本文一八三頁、索引四三の計二二六頁となっています。電話番号については初めての記載のために支部から連絡のあったもの及び会員から連絡のあったもののみで全体としては不完全です。今後は折にふれて整理していきたいと思います。

名簿の発行経費は販売経費をもってこれにあてることにしておりますので、**一部送料共一、五〇〇円**です。振替用紙を利用してご注文下さい。

尚印刷部数は一、五〇〇部ですので早目にご注文下さい。また誤植、住所不明者等については正誤表を印刷しお送りするつもりです。

二、同窓会業務についての学園の協力

同窓会業務については鯉渕学園に勤務する卒業生のうちの二～三名によって行われて来ました。しかも、学園の仕事としては仕組みの中からはずれており、他に気兼ねもしながら余暇をみてこれにあたって来ました。

会員各位にもご迷惑をかけてまいりました。大会や支部長会議の席上でも事務の不備をつく声もしばしばでした。事務局担当者は一日も早く解放されたいがいつわらざる心境だったように思われます。

幸、数務課内に同窓会業務担当を兼ねる女子職員を採用し、学園として同窓会に協力して下さるようになりました。

したがって事務局担当者の負担も一部軽減されて参りましたので、またようやくこの体制も板についてきましたので、今迄の不備を是正していきたいと思っています。

喪中につき、年頭のご挨拶を失礼させて戴きます。今年四月十五日、病気療養中の義父、七十七才の生涯を閉じました。

なお、例年皆様への賀状五〇〇枚分、三十周年記念事業に託させて戴きました。

鯉渕学園舎宅　西村典夫